

タンガとり

田検中1年

泉 伶音

「みんな出発オツケー？」「うん！」。僕は元氣よく返事をした。タンガをとり川へ行つた。タンガはタナガともいい、テナガエビのことだ。

「奄美はすごいな」。とても感動した。川はごみ一つなく、水がすきとおつていたからだ。雲もない空の下で、鳥の美しいさえずりを聞きながら、タンガとりを始めた。始めたとたん、父が呼んだ。「伶音。大きいのがいるよ」。タンガがにげないよう、しのび足で近づいた。僕はびっくり

した。大人の手のひらくらいの特大サイズのタンガがいた。

だが、捕まえるのはそう簡単ではなかった。僕が近づいたとたん、すぐ岩の中へ入った。そこから僕とタンガの勝負が始まった。どこかへ行くふりをしたが出てこなかった。そこで、米ぬかをまいた。スルスルスルとタンガが出てきた。僕はねらいを定め捕まえた。暑い日差しに照らされながら、僕は勝った。

家に帰って、みそ汁を作った。いつもの10倍おいしかった。また行つて次のタンガと闘いたいなと思った。

(宇検村)